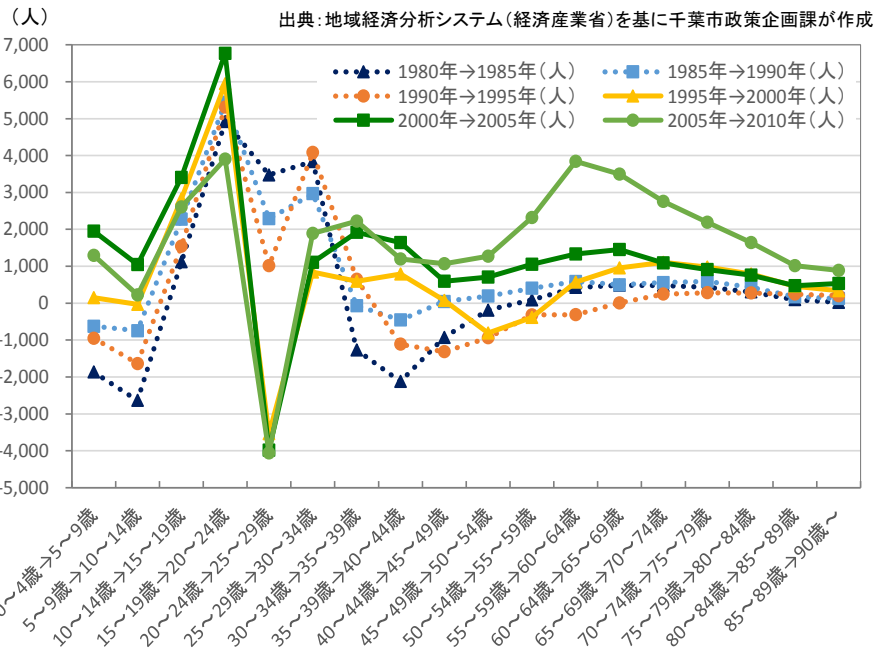


背景

- 千葉市に転入した若い世代が、卒業などを契機に転出している。また雇用のミスマッチが生じている。
- 将来、職業の在り方が大きく変化すると予測されている。

学生や若い社会人が進学・就職などの機会に千葉市に転入し、大学卒業などを契機として転出



職種別有効求人・求職状況 平成27年10月

出典：千葉労働局

有効求人数		職種	有効求職者数		求人倍率	
千葉	千葉南		千葉	千葉南	千葉	千葉南
18,168	5,428	職業計	10,718	7,475	1.70	0.73
55	24	管理的職業	55	38	1.00	0.63
3,626	1,162	専門的・技術的職業 (建築・土木技術者等) (医師・薬剤師等) (保健師・助産師等) (医療技術者)	1,460	910	2.48	1.28
1,557	398	事務的職業	3,875	2,380	0.40	0.17
1,973	375	販売の職業	1,180	666	1.67	0.56
5,486	2,237	サービスの職業 (介護サービスの職業)	971	872	5.65	2.57
1,302	212	保安の職業 (その他の保安職業)	86	49	15.14	4.33
96	22	農林漁業の職業	43	50	2.23	0.44
810	649	生産工程の職業	606	522	1.34	1.24
783	389	輸送・機械運転の職業	436	366	1.80	1.06
677	485	建設・採掘の職業 (建築躯体工事の職業)	147	121	4.61	4.01
1,803	421	運搬・清掃等の職業	1,337	1,167	1.35	0.36
—	—	分類不能の職業	522	334	—	—

子供たちが将来就くことになる職業の在り方についても、技術革新等の影響により大きく変化することになると予測されている。子供たちの**65%は将来、今は存在していない職業に就く**（キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授））との予測や、**今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い**（マイケル・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授））などの予測がある。

出典「平成27年8月26日 中央教育審議会教育課程企画特別部会論点整理」

課題

- キャリア教育に関する各事業において、庁内外の連携・協力を十分に行う必要がある。
- 理科教育では将来の職業意識の醸成につながっている一方、職場体験等を行っている「総合的な学習の時間」の活動では、将来の社会生活とのつながりを意識した取組の充実が必要である。

これまでのキャリア教育

＜教育委員会＞

市立高校
1 キャリア教育講演会
2 大学模擬授業
3 学部学科ガイダンス
4 大学別説明会

中学校
1 進路学習ノートの作成
2 保護者向け資料の作成
3 職業観を育てる体験活動
○ 職業調べ
○ 職場体験
○ 上級学校調査・訪問(資格)

小学校
職業観を育てる体験活動
○ 町たんけん
○ 農業体験
○ 工場見学
○ 施設訪問

現実的探索・試行と社会的移行準備
キャリア教育の目標
○ 自己理解深化と自己受容
○ 選択基準としての職業観・勤労観の確立
○ 将来設計の立案と社会的移行の準備
○ 進路の現実吟味と試行的参加

現実的探索と暫定的選択
キャリア教育の目標
○ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
○ 興味・関心に基づく職業観・勤労観の形成
○ 進路計画の立案と暫定的選択
○ 生き方や進路に関する現実的探索

進路の探索・選択にかかる基盤形成
キャリア教育の目標
○ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
○ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
○ 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
○ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

＜経済農政局＞

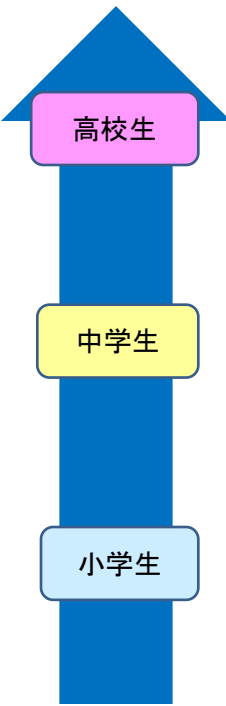
体験プログラム

大学等
・ 合同企業説明会
・ インターンシップ促進事業
・ 企業見学バスツアー

高校生
・ 海浜幕張を舞台としたビジネス体験講座

中学生
・ 中学生のための起業体験講座

小学生
・ 西千葉子ども起業塾
・ 夏休みおしごと感動体験



将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいか？（対児童生徒）

1. 当てはまる 2. どちらからといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答 (%)

公立小学校	1	2	3	4	5	6
千葉市	17.8	15.8	26.4	39.6	0.0	0.4
千葉県	15.9	15.3	26.0	42.2	0.1	0.5
全国	14.7	14.1	25.7	45.2	0.1	0.2

公立中学校	1	2	3	4	5	6
千葉市	10.1	14.1	25.1	50.1	0.1	0.5
千葉県	9.1	14.0	26.0	50.3	0.1	0.6
全国	9.2	13.7	26.0	50.7	0.0	0.3

「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思うか？（対児童生徒）

1. 当てはまる 2. どちらからといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答 (%)

公立小学校	1	2	3	4	5	6
千葉市	37.0	45.4	13.6	3.9	0.0	0.1
千葉県	39.8	44.7	12.1	3.3	0.0	0.1
全国	43.1	42.3	11.3	3.1	0.1	0.2

公立中学校	1	2	3	4	5	6
千葉市	22.2	49.1	21.0	7.6	0.0	0.1
千葉県	23.4	50.0	19.9	6.6	0.0	0.1
全国	25.9	48.7	18.6	6.6	0.0	0.2

今後の方針

- 庁内外の関係機関と連携・協働して、生涯を通じたキャリア教育を推進するための連携組織（**キャリア教育推進連携会議(仮称)**）を設置する（平成27年度中）
- キャリア教育推進連携会議(仮称)の意見を踏まえながら、教育委員会と経済部を中心として今後のキャリア教育の**基本となる方針を策定**(平成28年度)し、**既存施策の改善や新規事業**を実行する

連携組織のイメージ(案)



◆構成メンバー

- ・教育委員会
- ・小学校、中学校、市立高校
- ・県立高校、私立高校
- ・大学や専門学校
- ・市長部局(経済部)
- ・企業、産業界(商工会議所、経団連等)など
- ・有識者

◆役割

- 基本方針の策定に向けた意見交換を行う
- 教育委員会や経済部が実施する各事業の連携・協力を図る
- 産業界等が求める資質・能力等という視点から、各学校段階での「キャリア教育」の在り方について、意見交換を行う
- 職場体験などにおける学校現場と事業所等との円滑な連携を促進する
など

① 社会人基礎力の育成

社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力（コミュニケーション能力、熱意・意欲、行動力・実行力など）を育成すること

■教育課程における「キャリア教育」の位置づけの明確化

- ・ 研究校による実践及びモデルプランの作成
- ・ 働く上で必要となる一般的基礎知識（法律や税の仕組みなど）に関する教育の充実
- ・ S S Hなどの取組を通じた実践的活動の充実（市立高校）

■職業体験活動の質的・量的な見直し

- ・ 中学校における職場体験活動の抜本的見直し
- ・ 放課後子ども教室の活用
- ・ 「夏休みお仕事体験」や「中学生起業体験講座」「高校生ビジネス体験講座」の充実

② 進路指導

■将来を見通した進路指導

- ・ 社会ニーズや職業に関する最新情報を生徒や保護者に提供できる教員の確保（採用での社会人特例枠の設定、民間企業との人事交流、研修内容改善・充実等）
- ・ 経済団体関係者など外部の意見を取り入れた進路学習ノートの改訂
- ・ 進路指導主事とキャリア教育主任の連携促進
- ・ 退学者（特に専門高校退学者）を減少させるための進路指導の改善

上級学校や職業への円滑な移行を指導・支援すること

③ 職業教育

■県立高校との連携

- ・ 専門高校に関する生徒・保護者の理解促進
- ・ 県立高校の前期入試の定員制限廃止や総合学科への移行に関する生徒・保護者への周知

■大学等との連携

- ・ 大学の特徴に応じた職業教育に対する支援、連携
- ・ 市内企業でのインターンシップ、合同企業説明会等の開催

■社会人の学び直し・キャリアアップ

- ・ 生涯学習施設と大学・専門学校等との連携

一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成すること

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成すること（職業教育も含む）

就学前

小学生

中学生

高校生

大学生・短大生
専門学校生等

社会人

生涯を通じたキャリア教育